

3. 教育学部

(1) 教育学部の教育目的と特徴	3-2
(2) 「教育の水準」の分析	3-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	3-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	3-9
【参考】データ分析集 指標一覧	3-11

(1) 教育学部の教育目的と特徴

1. 教育学部の教育目的は、「教育と人間にかかわる多様な事象を対象とした諸科学を学ぶことで、心・人間・社会についての専門的識見を養成し、さらに、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考力と批判的判断力を形成し、人間らしさを擁護し促進する態度を啓培することで、地球社会の調和ある共存に貢献できる人材」を育成することにある。これは、「学士課程教育においては、幅広い視野と豊かな教養を涵養する教養教育を充実させるとともに、専門的基礎知識と総合的判断力並びに国際性を養う」とする京都大学全体の教育目標と整合する。さらに、教育学部という性格に鑑み、とりわけ豊かな教養と人間性を備えた人材育成、そしてその具体的実現のために、実践と研究の密接な連携のもと学界並びに社会に貢献する人材育成を重視した目的設定となっている。
2. 教育と社会の関係を創造的に探究することで、現代社会が抱える複雑な問題の解決を目指している。具体的には、学校だけでなく社会全体が人間形成を担う教育、つまり、「人間形成社会」の実現に不可欠な新しい教育を創生しうる人材養成である。そのため、人間と社会について深い関心と洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生教育を行っている。
3. 教育目的を実現するためには、現代の教育および教育に関連する社会的課題を自ら設定し、それを解決する理論と実践両方の力量を培うことが必須である。そのため、教育学部では、理論と実践との密接な連携及び少人数教育による対話型の教育の2つを中心の土台とした学部教育を行っている。具体的には、教養教育を専門教育と合わせて4年一貫教育として位置づけ、さらに学部から大学院への円滑な移行のための教育課程を構築、提供することで、現代社会のニーズを的確にとらえ、迅速に対応できるリーダーの育成を目指している。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 5203-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 5203-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 5203-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 なし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- カリキュラム編成において、各科目がカリキュラム上の位置付け及び授与する学位に相応しい水準であることを確認のうえ決定している。また、シラバスについても各科目担当教員がそれを反映し作成しているとともに、教育学部教務委員会でも確認している。[3.1]
- 本学部の学生（平成28年度以降入学者）は、教養・共通教育科目を、「人文・社会科学」「自然科学」「情報学」「健康スポーツ」「キャリア形成」「統合科学」「少人数教育」「外国語」の区分に沿って、合計72単位習得している。専門教育との関連は順調である。
本学部の教員は、以下の通り、「教養・共通教育」のために力を注いでいる。

京都大学教育学部 教育活動の状況

人文・社会科学科目群の入門科目として「教育学」「心理学」「偏見・差別・人権」を開講し、とりわけ、英語による教育研究への入門のクラスとして、以下のように、充実した科目を展開している。Pedagogy I・II、Advanced lecture for Pedagogy I・II、Introduction to Educational Studies I・II、Introduction to Educational Psychology I・II、Japanese History I・II、Japanese Intellectual History I・II、更に、外国文献研究のクラスも用意している。また、少人数教育科目群（ILAS セミナー）として、三科目開講し、現代社会系・心理系・関連社会系の教員が、それぞれ一科目ずつ担当し、キャリア形成科目群として「京都創造論」の科目を開いている。[3.0]

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 5203-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 5203-i4-2～3)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 5203-i4-4)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 5203-i4-5)
- ・ 指標番号 5、9～10 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016年度から必修専門科目の見直しを行い、研究の全体的プロセスを実際に体験することで、学生の学びの基礎力を培い、その後の専門的な学びのモチベーションを高めることを目的として、探究的な初年次専門教育「教育研究入門Ⅰ」をリレー講義方式から探究型授業へ、「教育研究入門Ⅱ」はアクティブラーニングの要素を取り入れるなどリニューアルを行った。前者はグループで決めたテーマを考察しポスターにまとめ、学会発表を模したポスター・プレゼンテーションにて発表させるものであり、後者では個人で研究を進めレポートを作成し発表させるものである。授業評価アンケートの記述などから、この授業に対する受講生の満足度は十分満足からほぼ満足までをあわせると、2016年度から2018年度平均で約66%と総じて高く、とりわけ充実した実施体制や探究型の授業方法に対して評価する声が多いことがわかる。これらの授業によって、学習・研究意欲や批判

的に考える力、プレゼンテーション能力や文章を要約する能力等が上昇したとのエビデンスも得られている。[4.1]

また、教員による学生のコメント・ペーパーやリアクション・ペーパーへの丁寧な応答など、双方向的な学習指導形態が評価されている。

- ・ 別添資料 5203-i4-6 教育学部・教育学研究科授業評価アンケート結果 (2016～2018 年度)
- ・ 別添資料 5203-i4-7 教育学部「教育研究入門」研究成果報告会ちらし (2018 年度)
- ・ 別添資料 5203-i4-8 第 22 回大学教育研究フォーラム発表論文集 (2015 年度)
【抜粋】 P366-369
- ・ 別添資料 5203-i4-9 教育学部「教育研究入門Ⅰ,Ⅱ」授業評価アンケート結果 (2016～2018 年度)
- ・

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 5203-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 5203-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料 (別添資料 5203-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料 (別添資料 5203-i5-4)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 障害のある学生に対する支援の実施内容については、2018 年度、事前に対象者と関係教職員 (教育学部学生委員会委員長、教育学部教務委員会委員長、授業 (演習) 担当者、学生総合支援センター障害学生支援ルーム担当者、教育学部教職教務掛長) の面談を実施したうえで、学部での演習・実習が始まるにあたりその演習・実習にも対応できるように、教室や座席位置について、車いすのまま入る専用機の準備、長時間の書字を可能にする器具、車いすから移動し一端横になって使用できるトイレの大幅な改修、配慮依頼文書の通知、介助者 (学生サポート) の配置、衣服を考慮した冷暖房による室内温度調整について、合理的配慮の実施内容を決定し、実行している。さらに当該学生に対しては、当該授業担当者のみならず、教務関係窓口等の関係者参集のもと対応のミーティングを重ね

京都大学教育学部 教育活動の状況

ている。必要に応じて、施設の大規模改修も実施し、必要備品の購入も積極的に行い、学習環境の改善にも努めてきた。授業開始後には、当該学生からのフィードバックを適宜授業担当者に伝達し、その後の環境整備にかかわるニーズを聴取し、よりよい学習環境作りに努めてきている。[5.1]

- 修学ならびに学生生活全般にかかわる相談には、各教員によるオフィスアワーをもうけ、随時適切に相談、指導を重ねてきている。個別の対応であり、教務上の窓口での対応に加えたものと考えている。すなわちそれは、修学上の不安や進路の相談、また志望に応じた研究指導を併せ持つ機能といえる。別添資料 5203-i5-5 教育学部・教育学研究科便覧（2019年度）【抜粋】オフィスアワー制度等

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 5203-i6-1～2※）※2019年度改定版
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 5203-i6-3～4）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 5203-i6-5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育学部教授会において、GPA 分布表の分析結果等の報告を行い、各教員へ学部生の入学後の動向がフィードバックされている。[6.2]
- ・ 別添資料 5203-i6-6 教育学部教授会（2019年5月16日開催）議事録【抄録】
- ・ 別添資料 5203-i6-7 教育学部 GPA 分布表（2018年度）

<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 5203-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 5203-i7-3～4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業論文の口頭試問は、所属する系から2人、さらに所属する系以外の系から1人の合計3人の教員が行っており、公正かつ多角的に卒業論文を評価する体制を整えている。[7.1]

- 卒業論文成績調整会議を開き、教員全員で卒業論文成績の検討を入念に行い、その成績確定を教授会で諮っている。[7.1]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 5203-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 5203-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 一般入試ではセンター試験に加えて、個別学力検査において文系型（地理歴史、数学、国語、外国語）、理系型（理科、理系用数学、国語、外国語）によって評価しているとともに、さらに特色入試を実施し、受験生の多面的な能力を評価している。とくに特色入試では、高大接続を重視し、学びの設計書を提出させるとともに、探求的な学力を評価するためにパフォーマンス評価も取り入れている。[8.1]
- ・ （再掲）別添資料 5203-i4-7 第22回大学教育研究フォーラム発表論文集(2015年度) 【抜粋】 P366-369
- ・ 別添資料 5203-i8-3 教育学部特色入試基本データ（2016年度～2019年度）

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 自己点検・評価委員会による FD である教育学研究科セミナーを各学期に1回行っており、特色入試によって入学してきた学生の追跡調査による入試や授業改善、また初年次教育としての教育研究入門の学生アンケート、成績調査のデータに基づく、今後の対策の検討、また学内外から講師を迎えて発達障害等支援の最新の状況セミナーなどを開催することにより、教育学部の教育の質の保証・向上に努めている。[C.1]
- ・ 別添資料 5203-iC-1 教育学部ガイダンス等レジュメ（2019年度）
- ・ 別添資料 5203-iC-2 教育学部系分属オリエンテーション掲示（2019年度）
- ・ 別添資料 5203-iC-3 教育学部・教育学研究科 FD セミナー一覧（2016年～2019

京都大学教育学部 教育活動の状況

年度)、FD セミナー記録 (2019 年度)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 5203-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 5203-ii1-1）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）
- ・ 標準修業年限×1.5年内卒業者の大学院進学内訳（2013～2015年度入学生）（別添資料 5203-ii1-2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 標準修業年限内卒業（修了）率は、80%台であるが、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率をみると、94%から100%となっており、うち20%弱の学生は、次年度大学院進学を果たしている。このことから、就職のみならず、進学に向けて学生自身が、卒業論文のリファインやデータ再分析を行い、成果を上げていると理解できる。 [1.1]
- 教員免許資格取得に向けて受験した学生は、教育実習の積極的な参加を経て、100%の合格率であった。 [1.2]
- ・ 別添資料 5203-ii1-2 教育学部資格取得状況（2016～2018年度）

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業生は国家・地方公務員、教育（学校）関係等多方面で活躍し、メディアに取り上げられている。 [2.2]
- ・ 卒業生の活躍記事（別添資料 5203-ii2-1）
- 卒業生の4割程度が大学院進学を果たし、さらに就職先においても、高度な専門的知識・技能を習得している。 [2.2]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 別添資料 5203-iiA-1 教育学部卒業時アンケート

京都大学教育学部 教育成果の状況

- ・ 別添資料 5203-iiA-2 教育学部卒業時アンケート結果（2017～2018年度）
- ・ 別添資料 5203-iiA-3 教育学部・教育学研究科卒業生からの意見聴取（2017年度）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ・ 2018年度教育学部卒業生に対する教育・学習に関する卒業時アンケート調査によると、9割以上の学生が、「広い視野」（90.9%）、「異質なものへの理解と寛容」（94%）が、「かなり身についた」、「ある程度身についた」と回答している。であった。また8割以上の学生が、「批判的判断力」（89.4%）、「多面的・総合的な思考力」（85.6%）、「心・人間・社会についての専門的識見」（84.9%）、さらに、「人間らしさを擁護し、促進する態度」（80%）が、「かなり身についた」、「ある程度身についた」と回答している。このことから、ディプロマ・ポリシーに掲げているほぼすべての項目を達成していると判断できる。

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。